



JFE スチール

代表取締役社長 (CEO)
柿木 厚司



製造実力の向上にいっそう磨きをかけ、常に新たな価値を創造し、お客様とともに成長するグローバル鉄鋼サプライヤーを目指します

JFE スチールは、世界トップクラスの技術力と効率性の高い生産拠点を有し、増大する高級鋼需要に応えてきました。足元は厳しい事業環境が続いていますが、将来を見据え、

- ・設備投資や人材育成の推進による「国内製造基盤整備の強化」
- ・成長が期待される分野・地域への「海外投資」
- ・技術優位性を高めるための「研究開発の強化」

これらの施策を着実に実施し、製造実力の向上を図ります。当社はこれからも、さまざまな高付加価値・高機能商品を提供することにより、お客様の多様なニーズにお応えすべく、挑戦し続けてまいります。

国内製造基盤整備の強化

国内製造拠点の操業安定化・コスト競争力の向上を目的に、重点課題として、設備・人の両面での製造基盤整備に取り組んでいます。設備については、補修・リフレッシュ工事を積極的に進め、設備の競争力を維持・強化していきます。具体例としては、原料荷役・運搬設備の集中補修や



コークス炉などの設備更新を進めています。人については、多様な人材の採用を進めるとともに、職場ごとに人材育成の専任者を配置する「テクニカル エキスパート制度」を導入するなど、技能伝承に重点を置いた取り組みを着実に進めていきます。

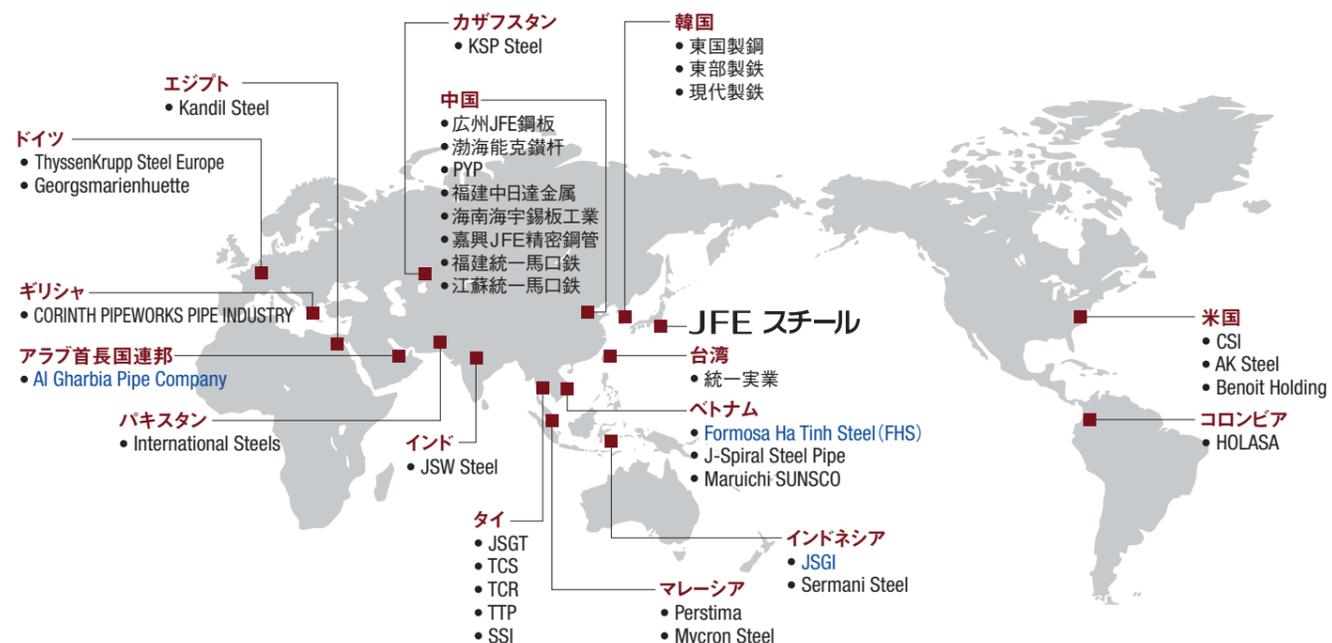


伸びゆく世界市場へ着実にアクセス

拡大が見込まれる世界の鉄鋼マーケットに対応するために、JFE スチールではさまざまな施策を実施しています。自動車用鋼板の供給体制については、中国・タイ・インドネシアにある製造拠点やインドのアライアンス先を通じて、高級鋼の製造・販売ネットワークを確立しています。また、中長期的に需要が見込まれるエネルギー鋼管についても供給体制

の整備を進めており、伊藤忠丸紅鉄鋼、アブダビ首長国100%出資の投資事業会社SENAAT社と共に大径溶接鋼管の製造・販売会社を設立し、現在アブダビに工場を建設中です。また、海外製造拠点として、ベトナムで一貫製鉄所を建設中のFHS社に対して資本参加すること、および技術支援・供与を行うことを決定しました。

■ 主要な出資・アライアンス先



ベトナム一貫製鉄所プロジェクトへ参画

台湾プラスチックグループがベトナムで実行中の一貫製鉄所プロジェクトに資本参加すること、および技術支援・供与を行うことを決定しました。本プロジェクトを遂行する合弁会社FHS社がベトナム初となる大規模一貫製鉄所を建設し、各設備が順次稼働しています。FHS社の早期の安定稼働に向け協力するとともに、FHS社において製造された製品を当社を通じて出資先やお客様に販売することで、今後の成長に結びつけていく予定です。



一貫製鉄所の象徴である高炉



アブダビでの鍍入れ式実施

当社と伊藤忠丸紅鉄鋼、およびアブダビ首長国100%出資の投資事業会社であるSENAAT社が出資するAl Gharbia Pipe Companyは、2016年4月にアブダビにある大径溶接鋼管工場の建設予定地で鍍入れ式を行いました。各社の社長をはじめ、政府や工事関係者など計80名程度が参加し、工場の安全とプロジェクトの成功を祈願しました。

インドネシアのCGLが稼働

当社が100%出資しているPT. JFE Steel Galvanizing Indonesia (JSGI)でインドネシア初の自動車用溶融亜鉛鍍金製造設備(Continuous Galvanizing Line: CGL)が稼働しました。今後は、お客様の承認を経て、本格的に営業生産を開始する予定です。本事業により、既に稼働中の中国・タイにつづきアジア地域の3拠点で自動車用溶融亜鉛鍍金製造設備を展開することとなります。



JFE スチールが日本で製造した原板を鍍金しています

コークス炉更新

国内製造基盤整備の一環として、現在コークス炉の更新を順次進めています。それらが全て稼働すると、全社コークス自給化が可能となり、大幅なコスト削減と競争力強化が見込まれます。



西日本製鉄所(倉敷地区)第3コークス炉

高機能冷延ハイテンと難加工部品用の成形技術を開発

優れた伸び特性と穴広げ性を両立する980MPa級の高張力冷延鋼板を開発しました。従来材と比較して、伸び値は2割向上、穴広げ率も2倍高くなっています。複雑な形状の部品が高強度化できることで、さらなる車体衝突性能の向上と、軽量化による燃費向上に貢献します。

また、これまで鋼材では加工できなかった部品にも適用できる、新しい成形技術も開発。軟鋼から超ハイテン材まで強度にかかわらず適用できるため、部品の性能やデザイン性の向上、軽量化に寄与します。



新しい成形技術を用いて加工した自動車のバックドア

水素ステーション用の蓄圧器を開発

当社とJFE コンテイナーは、水素ステーションの建設コスト低減に寄与する蓄圧器を開発しています。これはJFE コンテイナーが設計し、当社の鋼管を利用したライナー本体に炭素繊維を巻きつけた、水素を貯蔵するための容器です。シンプルなストレート型の形状で、材料コストとメンテナンスコストを低減させます。



長さ約1.6mの試作品

Highlights 2015

2015年

- 4月 ● 世界最高圧100MPa高圧水素ガス透過試験装置を開発
 - 文部科学大臣賞表彰式(地震対応技術)
- 5月 ● JFE西日本硬式野球部がJABAベールース杯争奪大会初優勝
 - 福山地区と京浜地区で祭りを開催
- 6月 ● 東日本製鉄所累計粗鋼1億トン達成
 - 全国発明表彰「発明賞」表彰式(HOP-HIPER®)
- 7月 ● 大型コンテナ船向け構造アレスト技術が世界初適用
 - 千葉地区西発電所4号機稼働
 - JFE西日本硬式野球部が都市対抗野球出場
- 8月 ● JFEファミリーデー初開催
- 9月 ● ベトナム一貫製鉄所プロジェクトへの参画契約締結
 - JFEメカニカル・JFE電制統合発表
- 10月 ● 千葉地区第6コークス炉A団更新工事鍍入れ
 - 千葉地区で祭りを開催
 - 中国・嘉興JFE精密鋼管開業式典を開催
- 11月 ● 倉敷地区で祭りを開催
 - ものづくり日本大賞表彰式(JFE-TF1)
 - 知多製造所で祭りを開催
 - JFE東西硬式野球部が第41回日本選手権出場
 - 京浜地区研究所開設80周年イベントを開催
 - 水素ステーションのコスト低減と長寿命化に寄与する蓄圧器を開発
- 12月 ● 地球温暖化防止活動環境大臣表彰表彰式(Super-SINTER®)
 - 難加工部品用成形技術を開発
 - 高伸び高穴広げ性ハイテンを開発

2016年

- 1月 ● インドネシアのCGL稼働
 - 千葉地区事業所内保育所の開設決定
 - 千葉地区第6コークス炉B団更新決定
- 2月 ● 倉敷地区第3コークス炉更新完工・稼働
 - 全日本実業団ハーフマラソン大会でJFEスチール競走部のディランゴ選手が優勝
 - 新機械振興賞表彰式(NEOプレス)
- 3月 ● エジプト・Kandil社への出資発表
 - 岩谷直治記念賞贈呈式(クロム鉱石加熱バーナー)
 - 市村産業賞受賞(Super-CR)
 - 大河内賞贈賞式(マイティーシーム®)